



お世話になりました



それぞれの立場で活躍された先生方

4月10日（金）に離任式が行われました。離任された7名の先生方（ご都合で2名欠席）は、それぞれの先生の亀城小での思い出や亀城っ子に対する期待、新しい学校で感じたことなどを語ってくださいました。子どもたちは、真剣な表情で先生方の言葉に聴き入っていました。先生方のお話の後には、全校で歌のプレゼントをしました。感謝の歌声が体育館に響きました。最後は離任された先生方と一緒に校歌を歌いました。式が終わると、山田前校長先生を先頭に子どもたちの間を縫って退場しました。子どもたちの代表から、先生方一人一人に亀城っ子からのたくさんの心のこもった手紙が贈られました。これからもお元気で活躍されることを願っています。

素早く安全を確保



屋外に出たら、小走りで

4月22日（水）、今年度初めての避難訓練を行いました。避難経路の確認や避難時の注意について学級ごとに指導を受けた後、放送で火災発生の連絡と避難の指示が流れました。子どもたちは担任引率の下、ハンカチを口と鼻に当て速やかに運動場に避難しました。全校が避難を完了し安全確認が終了するまで4分46秒でした。

校長先生からは、迅速に行動できたことをほめていただくと同時に、真剣に取り組むことの大切さについてのお話がありました。

次回からは、突然地震が襲ったときなどを想定し、より実践的な避難訓練に取り組んでいきます。

たくさん食べて元気になろう



残さず食べるよ

4月17日（金）、上級生から1週間遅れて1年生の給食がスタートしました。

初めて自分たちで配膳をするため、4時間目から給食当番の役割などを担任の先生に教えてもらいました。準備が始まると、当番の子どもたちは慣れない手つきで一生懸命配膳をしていました。この日のメニューは、発芽玄米ご飯、牛乳、コロケ、チキンカレー、キャベツとコーンのサラダでした。子どもたちはもりもり食べ、ほとんどの子が完食でした。「おいしい」という声もあちらこちらで聞かれました。しっかり食べて元気に育ってほしいものです。

黄色い通学帽への思い

亀城小学校では、昨年度、交通事故が1件もありませんでした。現在まで、2年近く交通事故0が続いています。これは、亀城っ子一人一人が交通安全への意識を高めてきたことや、地域の方々が見守ってくださっていることが大きく影響していると思いますが、それに加え、ある身近なものの存在を忘れてはいけないと思います。前校長の山田先生が教えてくださった、ある事実を紹介します。

交通事故防止への挑戦

前校長 山 田 基

皆さんは、毎日「黄色い帽子」をかぶって登校しています。この黄色い帽子は、いつから、なんのためにかぶっているか知っていますか。

亀城小学校の一人のお母さんの子どもを交通事故から守りたいという思いから「黄色い帽子」は誕生しました。

杉山幹子さん（37）は、次男の明久ちゃん（10）と三男の始久ちゃん（7）の2人が、いつもダンプやバスのいっぱい通る県道を横切って亀城小に通っている。

「子どもたちに万一のことがあっては・・・」という幹子さんは、同じ学校に通うお母さんたちも同じ悩みがあるだろうと林実校長とも相談、全校児童1800人を事故から守る「黄色い帽子」を贈ることを決め、児童の頭にぴったりしたものと、一人一人のサイズをはかって帽子屋さんにつくらせた。やっとできあがった黄色い帽子を（2月）27日の朝礼の時間にみんなに渡され、刈谷警察署の水谷署長も「黄色い帽子をかぶって事故を防ぎましょう」と事故防止を訴えた。・・・新しく入学する220人の子どもたちにも贈られる。

昭和37年2月28日(水)朝日新聞記事 一部抜粋

私のかすかな記憶ですが、自分が富士松南小学校の3年生（昭和38年）から巨人軍の帽子から黄色い帽子に変わったように思います。この亀城小学校の取組が市内に広まって、多くの学校で「黄色い帽子」をかぶるようになったのだと思います。信号の黄色は注意の合図。運転手が子どもに気づくようにと黄色い帽子のアイデアが生まれたのでしょうか。

昭和38年には、12,000人の交通事故死の方がいて、現在の3倍の死者になっています。日清戦争で亡くなった兵士の数が約1万人といわれています。まさに戦争状態だったわけです。昭和43年には市内の自転車通学の中学生はヘルメットをかぶることになり、現在まで続いています

信号機やガードレール、歩道橋や歩道の整備が進み、さらにシートベルトやヘルメットの着用も進み、自分の身は自分で守るという意識も高まったため、死亡する数は少しずつ減ってきています黄色い帽子を大切にしましょう。

